

筑波大学大学院

人間総合科学学術院人間総合科学研究群

世界遺産学学位プログラム [博士前期・後期課程]

世界遺産学学位プログラム 履修ガイド

2024



まえがき

博士前期課程の世界遺産専攻は、2004年4月に芸術研究科に開設され、その2年後に博士後期課程の世界文化遺産学専攻が人間総合科学研究科に開設されました。どちらの専攻も世界遺産学に関わる基礎研究から先端にまでいたる幅広い専門研究の実績を上げてきました。そして世界遺産学学位プログラムはこれらの前身となる専攻の教育・研究成果を基盤にして、世界遺産学としての学術体系をさらに発展させていく使命をもって2020年4月に発足しました。

本学位プログラム博士前期課程の教育目標は、世界遺産をはじめとする文化遺産や自然遺産の保護と活用に関わる専門家の育成です。世界遺産研究に関わる修士論文の提出により、修士(世界遺産学)を授与します。また博士後期課程の教育目標は、世界遺産の保護と活用の分野における高度な実務専門家、研究者養成を目的としています。博士学位請求論文の審査を得て、博士(世界遺産学)を授与しています。

人類が築き上げた文明の遺産と伝統的な文化の継承、人類の活動と自然との調和的共生は全地球的な課題となっています。世界遺産リストに記載された遺産のみならず、地域の文化と自然は、過去から継承され未来へ託される貴重な財産です。しかし、これらの貴重な財産の一部は、自然災害、戦争や紛争、観光開発、気候変動など、人的・自然的原因により危機に瀕しています。文化遺産・自然遺産は人々の活動と地球規模の環境変化の影響下にあり、その保護と活用を巡る状況は複雑にして解決が難しい問題となっています。

世界遺産学学位プログラムは、専門的知識と技術をもってこうした状況に挑み、内外の専門家、行政担当者、住民等と協力・連携して遺産の望ましい保護と活用を進める人材を育成します。遺産の保護と活用に関わる専門家、研究者になるために必要な学術、技術、制度的知識は多岐にわたりますが、本プログラムでは遺産保護の実務に必要な理念、教養、方法論およびマネジメントの能力取得、および遺産の評価、調査、分析、修復を行なう技術修得を教育目標としています。本プログラムの人材育成が遺産保護という重要な地球的・社会的使命に応え、わが国の国際貢献に寄与するように努めていきたいと考えます。

2024年4月

世界遺産学学位プログラムリーダー
上北恭史

目次

まえがき	1
目次	2
世界遺産学学位プログラム（博士前期課程）	
1. 筑波大学大学院スタンダード	3
2. カリキュラム・マップ	5
3. 例言	6
4. 履修方法	6
5. コンピテンス達成度評価について	7
6. 履修申請の注意事項	10
7. 授業一覧	12
8. 時間割	18
9. 学外の演習・集中講義等	23
10. 世界遺産学インターンシップ	26
11. 全学・他学術院の開設科目について	29
世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）	
1. 筑波大学大学院スタンダード	30
2. カリキュラム・マップ	32
3. 履修方法	33
4. 履修申請の注意事項	33
5. コンピテンス達成度評価について	34
6. 授業一覧	37
その他	
1. 事務手続き補足（学生生活など）	38
2. 世界遺産学学位 P 教員研究分野	43
3. 世界遺産学学位 P 教員連絡先	44
4. 筑波大学令和 6 年度学年歴カレンダー	45

世界遺産学学位プログラム（博士前期課程）

1. 筑波大学大学院スタンダード

世界遺産学学位プログラム(博士前期課程)
Master's Program in Heritage Studies

授与する学位の名称	修士(世界遺産学) [Master of Heritage Studies]	
人材養成目的	世界の文化遺産・自然遺産が直面する問題の所在を政治・経済・社会・自然環境など様々な側面から総合的に把握し、その保護のための課題を解決する理論・技術を習得し、世界遺産条約に基づく世界遺産はもとより、広く国内外の文化遺産・自然遺産の保護に貢献できる高度専門職業人を育成する。	
養成する人材像	文化遺産・自然遺産の保護と評価のための理論、文化遺産・自然遺産の管理・修復のための技術、文化遺産・自然遺産が直面している問題の所在を総合的に把握し、国際社会が目指す目標との関係において課題を的確に設定し、解決できる能力を有し、文化・自然遺産の保護のため、一般社会の広範な領域にまたがる関係者と自在に交渉することができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成する。	
修了後の進路	博士後期課程への進学。国や地方公共団体の職員、研究員等。文化遺産保護・国際協力分野の公的機関やコンサルタント関連企業及びマスコミ各社等の職員、研究員 ほか。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
6. 共通知の活用力:文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する幅広い知識を社会に役立てようとしているか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
7. 専門知の活用力:文化・自然遺産に関する高度な知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する専門的知識を社会に役立てようとしているか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
8. 共通技能の活用力:文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、広い視野から問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
9. 専門技能の活用力:文化・自然遺産保護の専門的課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、専門的能力を活かして問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産論、世界遺産特別演習、世界遺産特別研究、インターンシップなど
10. 国際実践力:国際的視野を持って、文化・自然遺産の保護に取り組む意識	文化・自然遺産の保全のため、国際社会に貢献する意欲と語学力を身につけたか。	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など

学位論文に係る評価の基準	
<p>(修士論文審査)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文審査専門委員会は、主査1名、副査2名により組織する。3名のうち、主査を含む2名は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。 2. 修士論文審査専門委員会の主査・副査全員出席のもと、個別審査を非公開で行う。ただし、他の教員等の参加の必要がある場合には、主査・副査の協議により、その取り扱いを決定する。個別審査は、通常1回とするが、必要がある場合には、主査・副査の協議により複数回行うことができる。個別審査では、主査・副査全員の合意により合格、不合格を決定する。 3. 公開審査では、個別審査の結果を踏まえて、学位プログラム教員全員により審査を行い、合否判定は専任教員会議において決定する。病気等やむを得ない事情により、公開審査会を欠席した学生の扱いは、専任教員会議において協議する。 <p>(評価基準)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界遺産学の修士論文として適切なテーマが設定されていること(問題意識・課題設定) 2. 先行研究を踏まえた論文の位置づけが明確であること(研究の位置づけ) 3. 課題にふさわしい研究方法が選択されその論拠が信頼できるものであること(研究方法、論拠の信頼性) 4. 論旨展開が十分で、全体に大きな矛盾がないこと(論文の構成) 5. 研究の実施および結果の公開において倫理的問題がないこと(倫理) <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独創性: 導入した概念や方法、発見した事実や法則のいずれかが新規であること。既知の方法の改良、異なる分野からの応用等を含むこと。 2. 萌芽性: 研究の着手段階であるが、新規な発想、着想に基づく研究で今後の発展の可能性の大きなものであること。 3. 発展性: 従来の定説を変え得る新事実の解明、あるいは新しい研究領域や研究体系・技術体系の開拓等の契機と成り得るものであること。 4. 有用性: 技術の向上、あるいは実用上、学術上に価値のある有用な情報を提供するものであること。 	
カリキュラム・ポリシー	
<p>世界遺産のみならず文化財の保存・修復、文化・自然遺産の保全、遺産地域のプランニングとマネジメントに関する幅広い知識と専門的な能力を身につけるため、実践的かつ学際的な学修課程を編成する。</p>	
教育課程の編成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生全員が履修すべき必修科目とそれぞれの専門技術を身につけるための選択科目に分類し、効率的な履修ができよう教育課程を編成する。 ・選択科目群については、国際遺産学、遺産の評価と保存、遺産のマネジメントとプランニングの3分野に分類し、大学院生の専門性に合わせてバランスよく単位を取得することができるように配慮する。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次では、必修科目「世界遺産論」において各々の研究計画を発表するとともに、必修科目「世界遺産特別演習」において指導教員から指導を受けつつ、1年次末に研究計画をまとめる。 ・1年次から2年次にかけて、国際遺産学、遺産の評価と保存、遺産のマネジメントとプランニングの各分野の選択科目の中から、大学院生の専門に応じた授業・演習を履修する。 ・2年次では、必修科目「世界遺産特別研究」において指導教員から指導を受けつつ、修士研究中間発表を行い、他分野の教員からの助言も受けながら、最終的に修士論文をまとめる。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の秋学期末に、全教員の前で研究計画を発表し、学修状況の審査を行う。 ・2年次の秋学期に、修士研究中間発表を行い、修士論文の執筆を進める。修士論文が提出された後、主査1名、副査2名で構成される論文審査委員会の審査を受け、公開発表会を行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>世界遺産の保護管理や活用のみならず、多様な文化の交流と継承に関する国際協力、生物多様性をはじめとする地球環境への取り組み、観光を含む地域振興の取り組みなどに対して、幅広い関心を有し、研究活動に必要な学力と資質を備える学生を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>入学者の選抜は、外国語（英語）の提出スコアならびに口述試験に基づき、世界遺産学に必要な、語学力、基礎的な専門知識、研究能力を総合的に評価する。</p>

世界遺産学学位プログラム（博士前期課程）

3. 例言

この履修ガイドは人間総合科学学術院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム（博士前期課程）の2024年度の授業の概要を示したものです。履修ガイドとKdB（シラバス）をよく読み、履修計画を立ててください。KdB(<https://kdb.tsukuba.ac.jp/>)（シラバス）の内容は変更する場合がありますので注意してください。

4. 履修方法

【履修方法・修了要件】

科目区分	科目群	条件または科目名等	修得単位数
基礎科目 / General Foundation Subjects	必修科目 / Required	世界遺産論（2単位）	12
		世界遺産特別演習（3単位）	
		世界遺産特別研究（6単位）	
		研究倫理（1単位）	
	選択科目 / Core Electives	「世界遺産を科学する」等、人間総合科学学術院共通専門基盤科目または大学院共通科目	1
専門科目 / Major Subjects	選択科目 / Core Electives	世界遺産学関連科目から17単位以上履修すること	17
修了単位数			30

（修了要件）

2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

※他大学、他学術院、他学位プログラム（自然保護サーティフィケートプログラムの科目を含む）学群の科目は、研究上の必要に応じて指導教員と学位プログラムリーダーの承認を得て、10単位を限度として専門科目の選択科目と認めることができる。

（推奨）「世界遺産を科学する」を含め、大学院共通科目・学術院専門基盤科目を履修することを推奨する

5. コンピテンス達成度評価について

世界遺産学学位P コンピテンス達成度評価簡易マニュアル

1. コンピテンス達成度評価の導入について

筑波大学では、2020年4月に大学院の改組・再編を行い学位プログラム制導入に伴って、筑波大学大学院の学生が修了時に身につけるべき知識・能力等を「コンピテンス」として設定することとなりました。人間総合科学研究群に入学した博士前期課程、博士後期課程の学生も、学位取得までに学位プログラムが設定するコンピテンスの基準に到達する必要があります。

筑波大学大学院を修了した学生全員が身につけているのが「汎用コンピテンス」であり、博士前期課程と博士後期課程とでは若干異なりますが、それぞれ5つが設定されています。それ以外に、学位プログラムの定める「専門コンピテンス」があります。

2. コンピテンスの達成についての考え方

各学位プログラムの「カリキュラム・マップ」において、所属組織が開設している個々の授業科目、および授業科目以外の評価項目について、どのコンピテンスの項目の何単位分に相当するかという基準値を示しています。また研究群では、大学院共通科目や学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目の基準値を示しています。修得した授業科目のそれぞれのコンピテンスの項目の基準値をすべて足し算した値が、学位プログラムの定める達成度評価基準に到達していれば、その項目のコンピテンスは修得できた、ということになります。

コンピテンスは、おおむね、修了要件を満たせば達成できるようにしていますが、修了要件を満たすだけでは達成できない場合もありますので、注意してください。また修了要件以外の科目の履修や、学会活動、フィールド調査、インターンシップなどによっても、コンピテンス達成に必要な単位数の一部に相当するものと認定されることがあります。

したがって自分が、コンピテンスをどの程度まで達成しているのか、1年ごとに「カリキュラム・マップ」に示されている基準値を計算して自己評価し、それをもとに指導教員と綿密に相談して、必要に応じて履修計画を変更し、学位論文提出時には学位プログラムで定めている達成度評価基準を満たしているようにしてください。

3. コンピテンス達成度評価の方法

1) 評価時期

- ・博士前期課程の場合
 - 1年次 2月（世界遺産特別演習修論進捗発表会時）
 - 2年次 10月（中間発表時）、12月（修士論文提出時）

2) 評価方法

- ①博士前期課程に関しては提出1カ月前に Manaba（<http://www.ecloud.tsukuba.ac.jp/manaba>）を通じてカリキュラム担当委員が自己評価を学生に依頼する。
- ②学生自身が、カリキュラム・マップを参照して「達成度評価シート」に記入し、コンピテンスの達成状況を確認する。
- ③学生は「達成度評価シート」を指導教員に提出する。指導教員は、学生のコンピテンスの達成状況を確認し、コンピテンスの達成度を判定する。不足がある場合は指導教員と話し合って履修計画を変更する。
- ④達成度評価を踏まえ、次学期の科目の履修を決める。
- ⑤修士2年次の論文審査委員会は、達成度評価結果と口頭試問をもとに最終試験を行い、可否を判定する。
- ⑥「達成度評価シート」は、保管し、次の達成度評価のときに書き加えていく。
- ⑦その他
 - ・早期修了予定者は、学位論文提出資格の認定時にコンピテンス達成基準を満たしている必要があります。
 - ・今後、学位プログラムで論文博士を取得する場合にも、学位プログラムのコンピテンス達成度評価基準に到達することが必要になります。

(例)

コンピテンス評価表（世界遺産学学位プログラム・博士前期課程）

学籍番号 *****

氏名 *****

科目名	汎用コンピテンス					専門コンピテンス					コンピテンス 科目別合計
	知の 活用力	マネジ メント 能力	コミュ ニケー ション 能力	チー ムワ ーク カ	国際 性	共 通 知 の 活 用 力	専 門 知 の 活 用 力	共 通 技 能 の 活 用 力	専 門 技 能 の 活 用 力	国 際 実 践 力	
学位プログラム開設科目											
世界遺産論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
世界遺産特別演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
文化遺産論	○		○			○	○	○	○	○	7
自然遺産論	○		○			○	○	○	○	○	7
自然遺産演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
遺産保護行政論	○		○			○	○	○	○	○	6
世界遺産学インターンシップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
Global Learning: Heritage, Creativity and Art (グローバルに学ぶヘリテージ、創造性とアート)	○		○		○	○	○	○	○	○	8
Global Project: Designing Heritage Research (グローバルの考究するヘリテージ研究デザイン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	○		○		○	○	○	○	○	○	8
Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	○		○		○	○	○	○	○	○	8
Advanced Practice of Heritage Studies (市民参加研究演習)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
建築遺産論	○		○			○	○	○	○		6
建築遺産演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
保存科学概論	○		○			○	○	○	○		6
保存科学演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
遺産整備計画論	○		○			○	○	○	○		6
遺産整備計画演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
文化的景観論	○		○			○	○	○	○		6
世界遺産を科学する	○		○			○	○	○	○		6
研究倫理	○	○	○								3
小計	21	10	21	9	12	20	20	20	20	14	167
学術院共通専門基礎科目											
											0
											0
											0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院共通科目											
											0
											0
											0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他学位P開設科目											
											0
											0
											0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
授業科目以外の評価項目											
学会発表(国内)	○	○	○	○	(国内)	○	○	○	○		8
留学(オンライン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
INFOSS情報倫理、APRIN e-learning									○		1
小計	2	2	2	2	1	2	2	2	3	1	19
合計	23	12	23	11	13	22	22	22	23	15	186
達成基準(仮)	17	6	17	6	6	17	17	17	17	6	126
達成状況	135.3%	200.0%	135.3%	183.3%	216.7%	129.4%	129.4%	129.4%	135.3%	250.0%	164.4%

6. 履修申請の注意事項

(1) 手続き

- 履修申請手続きは、履修申請登録期間中に TWINS(<https://twins.tsukuba.ac.jp/>)から行ってください。
- シラバスは KdB(<https://kdb.tsukuba.ac.jp/>)で公開していますので履修する授業の内容を確認してください。
- 集中講義のうち実施予定日、講師名が未定の講義は KdB に表示されないことがあります。実施予定日、講師名が発表された時点で、改めて履修申請登録期間が設定されますので、告知された登録期間中に申請を行ってください。期間中に登録できなかった場合は下記の追加履修申請書を提出の上、履修してください。
- 履修申請を忘れた場合は TWINS の「履修申請変更」から追加履修申請書を出し、授業担当教員、指導教員の2名の署名捺印後、体育芸術エリア支援室の大学院教務担当窓口へ提出してください。(P.38 付録参照：履修申請)

(2) 連絡および休学手続き等

- 必要なお知らせは TWINS、メール、および共同研究棟 A・2 階の掲示コーナー（共同研究棟 A2 階 207 号室入口付近）に掲示しますので必ず確認してください。
- 授業に関する知らせは manaba 経由でメールの連絡があります。必ずリンク先の manaba を開いて確認してください。
- 履修、休学など教務に関する手続きは体育芸術エリア支援室大学院教務に問い合わせてください。(P.42 付録参照：大学院便覧)

(3) 手続きの場所について

- 世界遺産学学位プログラム事務室では履修・単位に関する問い合わせは対応いたしません。体育芸術エリア支援室 大学院教務（5C 棟）までお問い合わせください。
- 不在時の連絡先：office@heritage.tsukuba.ac.jp

※その他、申請手続きに関する詳細は、P.38～付録にて確認してください。

(4) 履修方法に係る履修届

〔履修方法〕

他学術院、他学位プログラム（自然保護サーティフィケートプログラムの科目を含む）、学群の科目は、研究上の必要に応じて、指導教員と学位プログラムリーダーの承認を得て、10 単位を限度として修了要件の選択科目として認めることができる。

〔提出方法〕

- 春学期と秋学期に申請期間があります。
- メーリングリストで申請用紙（Word）と提出方法のお知らせがあるので必ず確認してください。
- 申請書を作成・印刷し、指導教員の印を得て、締切日までに体育芸術エリア支援室大学院教務窓口まで提出してください。

(例)

令和6年 月 日

令和6年度 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

世界遺産学学位プログラム 履修方法に係わる履修届

博士前期課程 世界遺産学学位プログラムリーダー殿

博士前期課程 世界遺産学学位プログラム 年

学 籍 番 号 2024*****

氏 名 ○ ○ ○ ○

私は、人間総合科学学術院 博士前期課程 世界遺産学学位プログラム履修方法に係る科目として、今年度下記の科目の履修を申請いたしますので、これらの科目の単位を修得した場合には規定に沿って選択科目への振替をご承認願います。

記

開設組織名 (学群・学術院)	科 目 番 号	科 目 名	単 位 数
人間総合科学学術院	0A0A004	保護地域管理論	1
人間総合科学学術院	0A0A005	景観・緑地保全論	1
人間総合科学学術院	0AS0306	世界遺産を科学する	1
		合計単位数	3単位
指導教員 氏名			印

- ※ (1) 申請締切 (令和6年5月31日 (金) 17時/秋学期は10月予定) 厳守のこと。
- (2) 履修申請を行わなかった場合は無効となるので、TWINSにおいて期間内に履修申請を行うこと。

7. 授業一覧

必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATV001	世界遺産論	1	2.0	1・2	春AB	水2,3	人社B218	池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 滝沢 誠, 野中 勝利, 松井 圭介, 松井 敏也, 八木 春生, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	本科目は、世界遺産学学位プログラム博士前期課程1年次の必修科目である。世界遺産学学位プログラム教員の研究の紹介のほか、学生の研究発表等を予定する。国際遺産学・遺産の評価と保存・マネジメントとプランニングの各分野に分かれて議論を行い、研究に必要な基本的視点を確立する。また、最新の遺産保護・活用事例に関する研究・報告やサイトへの実際の見学を通じて、最先端の研究に触れる。履修生は、最終2週において、研究対象となりうるテーマについて発表することを求められる。	英語運用能力が必要な場合もある。(日本語話者向け) 対面・オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。
OATV002	世界遺産特別演習	2	3.0	1	通年	随時		池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	本科目は、世界遺産学学位プログラム博士前期課程1年次の必修科目である。本科目の演習時間数は、研究室ゼミの参加と、毎年度2月頭に実施する「修士論文進捗発表会」での発表・質疑応答に該当する。配属された各研究室ゼミでの専門書、先行研究の論文講読や合宿、研究発表等を行うことが求められる。これらの参加により、研究テーマや手法を決める。また、論文講読を通じて、学術調査や論文執筆の基礎的スキルを身につける。履修生は、年1回(例年1月後半～2月前半)、修士論文研究テーマについて発表することを求められる。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 対面・オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。
OATV003	世界遺産特別研究	2	6.0	2	通年	随時		池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	本科目は、世界遺産学学位プログラム博士前期課程2年次の必修科目である(1年次の履修は認めない)。修士2年次には、指導教員等から修士論文の研究についてゼミ等で定期的に学術指導を受け、ゼミ発表や修士論文中間発表を経て、修士論文作成と12月の提出を行い、中間発表、修論個別審査、および公開発表において発表を行い、審査を受けることが求められる。なお、論文担当委員の指示をよく聞くこと。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 対面・オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。
OA00103	研究倫理	4	1.0	1 - 5	春BC	随時		岡林 浩嗣, 大須賀 社	研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。 本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習(個別演習・グループ演習)を交互に挟み構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動をとりまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。	オンライン(オンデマンド型)

選択科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OAS0306	世界遺産を科学する	1	1.0	1・2	秋AB	火2	人社B218	池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	本講義では、世界遺産(文化遺産・自然遺産)に関する学術的調査・研究の進展や現状と課題、そして保護・利用・活用等における実務的な諸課題・解決方法を、人文社会科学(芸術学・地理学・保存科学)・自然科学(生態学・保存科学)・工学(建築学・建築保存学・造園学)等の観点から多角的・学際的に考究する。	対面 2024年度は対面での実施を予定する。
OATV101	文化遺産論	1	1.0	1・2	秋AB	木2	人社B218	下田 一太	文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。履修する大学院生は、文化遺産保護の理念と制度を理解するだけでなく、現代社会における文化財保護についてのディスカッションに参加し、意見を述べるができるようになることが求められる。	対面(オンライン併用型)

OATV102	文化遺産演習	2	2.0	1・2	春B 夏季休業 中	集中		黒田 乃生	本演習は世界文化遺産の保護の現状について体験を通じて学ぶことにある。1995年に世界遺産リストに登録された「白川郷五箇山の合掌造り集落」およびその周辺集落において維持管理活動の体験および実際に文化遺産がある地域で生活する関係者、文化財保護の担当者、まちづくりの団体との交流や聞き取りを通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および課題について考察する。現地実習の前には現地について学ぶ課題を提出し、実習後には演習で体得した文化遺産保護の課題についてレポートを提出させる。	ガイダンスと事前学習：春Bから春C 現地実習：9月中旬 対面
OATV103	自然遺産論	1	1.0	1・2	春AB	集中	人社 B218	飯田 義彦, 吉田 正人	自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性についても考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセーフティネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。	実施日【5/25・26】
OATV104	自然遺産演習	2	2.0	1・2	夏季休業 中	集中		飯田 義彦, 吉田 正人, 三ツ井 聡美	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。	小笠原諸島 8/27～9/1
OATV105	宗教論	1	1.0	1・2	秋C	火3, 4	人社 B218	松井 圭介	近年、注目を集めるようになってきている世界における宗教とツーリズムとの関係をめぐる研究動向を紹介しながら、日本の世界遺産を事例に両者の関係を整理・検討する。とりわけ、世界文化遺産に登録された紀伊山地熊野古道、長崎・豊仙の潜伏キリシタン関連遺産などの事例をもとに、宗教遺産が観光資源として対象化される過程やその問題点を考える。本年度は、現地視察を実施し、上記に関する実践的な理解を深めることを主目的とする。	
OATV106	無形遺産論	1	1.0	1・2	春C	集中	人社 B218	池田 真利子	UNESCO無形文化遺産保護条約の概念、体制やその変遷、また国内外の無形文化遺産の事例に関する知識の習得を通して、無形遺産への理解を深化させ、無形遺産が持つ文化的価値について考究する。偶数年度である2024年度は、東京文化財研究所において実務の立場から研究に従事する2名の先生を講師としてお招きし、授業の一部を東京文化財研究所において実施する。 【授業スケジュール詳細】 7月6日（土）@筑波大学人文社会科学系棟B218 講師：石村智先生（東京文化財研究所など） 時間：未定 7月7日（日）@東京文化財研究所 https://www.tobunken.go.jp/japanese/navi/map.html 講師：石村智先生（東京文化財研究所など） 時間：未定 7月24日（水）@筑波大学人文社会科学系棟B218 講師：宮田繁幸先生（東京福祉大学、東京文化財研究所） 時間：3限・4限・5限 7月25日（木）@筑波大学人文社会科学系棟B218 講師：宮田繁幸先生 時間：3限・4限	日本語運用能力があることが望ましい。 非常勤講師：宮田繁幸、石村智 合野外調査、実務経験 教員、対面 2024年度は対面講義を 予定する。
OATV107	遺産保護行政論	1	1.0	1・2	秋B	集中		下田 一太	日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて理解し、日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。文化庁の遺産保護担当者から、直接、遺産保護に関わる法制度、行政のシステムに加えて、具体的な遺産保護の事例についてその経験を伺い、日本の遺産保護行政の成果と課題について学ぶ。	非常勤講師 実務経験教員、オンライ ン(同時双方向型)
OATV109	世界遺産学インターンシップ(長期)	3	3.0	1・2	通年	応談		池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	遺産の保存・活用に関わる行政機関・法人やサイト等において実地研修を行ない、現場でのノウハウを学ぶこと等が求められる。インターンシップ先の代表的なものには、世界遺産保全に関する行政機関・コンサルティング、研究所、テレビ局、博物館・美術館等がある。研修先の選択にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意すること。研修機関からの評価を考慮し、インターンシップの成果を評価する。インターンシップの期間の目安は3週間～9週間とする。	英語運用能力が求められる場合がある。(日本語話者向け)

OATV501	世界遺産学インターンシップ(短期)	3	1.0	1・2	通年	応談		池田 真利子, 上北 恭史, 黒田 乃生, 八木 春生, 松井 敏也, 下田 一太, 伊藤 弘, 飯田 義彦, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	遺産の保存・活用に関わる行政機関・法人やサイト等において実地研修を行ない、現場でのノウハウを学ぶこと等が求められる。インターンシップ先の代表的なものには、世界遺産保全に関する行政機関・コンサルティング、研究所、テレビ局、博物館・美術館等がある。研修先の選択にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意すること。研修機関からの評価を考慮し、インターンシップの成果を評価する。インターンシップの期間の目安は1週間～3週間とする。	
OATV110	Global Learning: Heritage, Creativity and Art (グローバルに学ぶヘリテージ、創造性とアート)	4	1.0	1・2	春C	木2, 3	人社 B218	池田 真利子, 上北 恭史, 松井 敏也, 渡 和由, 大谷 悠, Gross Anne	本科目は、「Creativity and Art (創造性とアート)」をキーワードとし、ヘリテージ学に関わる文理横断的な学術・学際的研究視点を日本語と外国語で学ぶことにある。そこで、「Designing Heritage Research」のテーマと関連付け、各年の学生/教員の関心や時流に合ったテーマを設定し、当該テーマに関する研究視点や事例、モデル等を学生と議論しながら解説する。2024年度は、ヘリテージ学の「活用」に焦点を当て、地理学(地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査)・建築デザイン学(材料・構造・デザイン史・フィールド科学)・保存科学(行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法)を中核とし、上述の学域以外の研究者ら(メディア学・建築学・デザイン学等)も交えて、概念・理論から実践的事例まで幅広く紹介し、議論を行う。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 対面、対面(オンライン併用型)、オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義(教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある)を予定する。
OATV111	Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)	7	2.0	1・2	夏季休業中 秋ABC	集中		池田 真利子, 上北 恭史, 松井 敏也	本科目のねらいは、「Creativity and Art (創造性とアート)」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し、その研究方法やデータ取得方法を大学/現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく、自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることができる。また、「Global Creativity and Art (創造性とアート)」と連携させることにより、国際的な学術議論を無理なく考えに取り組むことができる。 なお2024年度は、ヘリテージ学の「活用」に焦点を当て、地理学(地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査)・建築デザイン学(材料・構造・デザイン史・フィールド科学)・保存科学(行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法)を中核とし、フレキシブルなチーム(研究・情報メディア記録・提案)に分かれ、地域貢献における発展性を意識した学術的成果へと繋げる予定である。本科目では、専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行う。	一定の基準を設け、履修生数を限定する場合があります。オンライン(同時双方向型)および対面の併用:「プロジェクトルーム(共同研究棟A212)」および筑波大学学内未活用施設でのオンライン併用型演習・作業(オンラインの場合には、Microsoft TEAMS/STREAMを使用)。および学外演習(東京都・茨城県・長崎県や市区行政、東京都荒川区・台東区および茨城県つくば市近郊の未活用遺産サイト等)
OATV201	Global Heritage Studies (国際遺産論)	1	1.0	1・2	秋B	月1, 2	人社 B218	肥後 時尚	本講義では、歴史、哲学、公共政策など現代のグローバル社会における文化遺産保護を総合的にとらえて講述し、文化遺産のあり方について多角的な考え方を学ぶ。エジプトの文化遺産に焦点を当てながら、世界遺産条約などの国際的な条約から各国の保護政策まで取り上げる。	
OATV202	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産条約)	1	1.0	1・2	秋A	集中		上北 恭史, 飯田 義彦, 池田 真利子	ユネスコ世界遺産条約は、国際遺産分野で最も影響力のある制度として、個々の遺産の保護・保全の実際から、各国の遺産政策や行政の展開に至るまで、加盟国に重要な指導的枠組みを提供してきた。本講義では、世界遺産条約の歴史、理念、運用スキームを網羅しながら、世界遺産条約とその周辺で展開された国際的な議論の全体像を解説する。	非常勤講師: 稲葉信子
OATV203	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	1	1.0	1・2	春BC	集中		飯田 義彦, 池田 真利子, 肥後 時尚	世界文化遺産・世界自然遺産に関わる国際協力の事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関わる国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、日本の国際協力に関する枠組みについても取り上げる。	非常勤講師: 長岡正哲(ユネスコ) 外部講師: 長谷川基裕(JICA) 英語で授業。 実施日【7/5 長谷川基裕先生】 実施日【7/9・16 長岡正哲先生】

OATV204	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1	1.0	1・2	秋A	火4,5		池田 真利子	本講義では、1) 現在の世界遺産が直面する課題を的確に知り、2) その背景にある地域の実情を多角的かつ分野横断的にみること、さらに3) 世界遺産の維持のために必要不可欠とされている市民参加の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッパの遺産保存の在り方から探ること、4 世界遺産の多様化、5EUにおける最新の文化遺産を巡る動向を理解することを通じて、世界遺産における市民参加がどのようにして実現され得るのかを考えることを目標とする。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 対面、オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義(教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある)を予定する。
OATV205	World Heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	1	1.0	1・2	春BC	集中		飯田 義彦	持続可能性概念について様々な保全制度と地域実践事例から学ぶ。自然と文化の遺産管理において、持続可能性概念や国連の持続可能な開発目標(SDGs)をいかに結びつけて社会実装を進めるか。その上で、持続可能な社会づくりに向けたグローバルとローカルの協働のあり方と将来方針についての自身の考えを深める。	英語で授業。 実施日【7/20・21】
OATV206	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1	1.0	1・2	春BC	集中		池田 真利子, 飯田 義彦, 肥後 時尚	修士・博士課程の学生は、ドイツやイタリアなどの西欧諸国だけでなく、旧東ドイツなどの東欧諸国やインドなどの南欧諸国における最近の国家的・地域的・地域的背景を知ること、現代の「グローバル世界」において遺産とアイデンティティがどのように関連しているかを学ぶ。遺産保存の分野では、市民参加に根ざした実践は、特に1980年代以降、特定の地域的・政治的文脈によって、多くの成果を上げてきた。しかし、実利主義的な学術的言説は、国や地域の文脈を無視する傾向があり、「遺産化」や「組織化」に伴う対立も生じている。本講演では、30年以上にわたって実践的、理論的、そして学術的な見解に基づいて遺産学という学問分野を発展させてきたLeo Schmidt教授、Alexandra Skedzuhn-Safir教授(いずれもドイツBTU)、Jens Casper教授ら(エアフルト応用科学大学)の協力を得て、オンライン上でさらに学術的な議論を展開する。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け)参考) IELTS総合スコアが6.5程度 英語で授業。 対面、オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義(教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある)を予定する。
OATV207	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	1	1.0	1・2	春BC	集中		飯田 義彦, 池田 真利子, 肥後 時尚, 堀江 正彦	この授業では、地球環境の保全、遺産の保護と開発に関する国際条約と、世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会において、どのように遺産と共存し、環境を保全するとともに、持続可能な社会を実現するかを学ぶ。	非常勤講師：堀江正彦、外部講師：鈴木涉 英語で授業。 対面 実施日【6/3 堀江正彦先生】 実施日【6/8 鈴木涉先生】
OATV208	Project Practice in UNESCO-designated Area (ユネスコ地域演習)	2	2.0	1・2	春C夏季休業中	集中		飯田 義彦	国内外におけるフィールド実習を通じて、遺産保護と持続可能な開発のバランスを取るための方策について、現地の関係者の取組や国際的な視点の双方から学ぶ。	現地実習(石川県白山市) 英語で授業。 7/29~8/4
OATV209	Advanced Practice of Heritage Studies (市民参加研究演習)	7	3.0	1・2					本演習は「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ国内外の学術的視点や知識に基づき、海外(主としてドイツ等の西ヨーロッパ)や国内のフィールドを実際に訪れ、より実践的に研究方法を習得することを目的とする。本科目のねらいは、OATV204「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し、その研究方法やデータ取得方法を大学/現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく、自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることが出来る。また、海外フィールド調査において、「自分が知りたいこと」の情報を得るため、英語やその他の国の言語能力を使用することで、国際的な学術議論を無理なく行うことができるようになる。なお本科目では、専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行う。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 英語で授業。 2024年度開講せず。 対面、オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面(教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある)を予定する。
OATV301	建築遺産論	1	1.0	1・2	春AB	木3	人社 B218	下田 一太	多様な歴史的背景や環境条件、意匠的特徴や利用可能な材料の特性に根差した建築遺産の理解、分析、調査、記述の方法と視覚化、評価の方法を学び、そうした歴史的建造物の意義や価値を保存・継承するための修理や復元の理念と技術、それらを伝達するための整備や再生の幅広い手法や技術について、国内外の世界文化遺産を含む建築遺産を事例として理解する。授業を通じて、各自が関心を有する建築遺産に対して、必要とされる調査を実践的に適用するための知識を習得し、保存や活用のための具体的な提案ができるようになることを到達目標とする。	対面(オンライン併用型)

0ATV302	建築遺産演習	2	3.0	1・2	通年	集中		下田 一太	建築遺産や周辺環境、建築と人との関係性を測量、記録し、図面化する手法について実践を通じて学ぶ。また、それらの記録や各種表現を、建築遺産やその地域の保存や活用のために利用し、提案を関係者に共有し議論する一連の過程を経験する。それらの過程において、建築遺産の研究や修復、活用における幅広い課題を理解し、建築の構造や意匠、技法の特質、建築空間の利用方法を調査・分析する能力を養う。多様な専門的知識や技術を横断的に連携し、取り組む必要のある建築遺産の保存と活用の体験を通じて、多様な関係者と協働し、建築遺産の保護と活用に寄与することができるようにする。	学外の建築遺産にて対面で実施
0ATV303	美術遺産論I	1	1.0	1・2	春AB	火3	人社B218	八木 春生	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された雲岡石窟や龍門石窟を対象とする。この授業では、その中でも北魏時代(439年から534年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで評価を行う。それぞれの石窟がいかなる目的のために、またいかなる人々のために開かれたか、そのためにいかなる工夫がなされたかを明らかにする。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、中国北魏時代の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	対面。オンライン(オンデマンド型)
0ATV304	美術遺産論II	1	1.0	1・2	秋AB	火3	人社B218	八木 春生	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、龍門石窟などの、唐時代前期(618年から655年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで、これらの石窟の評価を行う。敦煌莫高窟唐前期諸窟や、龍門石窟唐前期諸窟のほとんどは、北魏時代に国家により開かれた雲岡石窟と異なり、民間による造営である。浄土教が流行したこの時期に、人々がいかなる目的を持って造営し、またそれらの人々の要求を満足させるためにどのような工夫がなされたかを考察する。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、唐時代前期の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	対面。オンライン(オンデマンド型)
0ATV305	美術遺産演習	2	2.0	1・2	秋A	集中		八木 春生	演習(学外)。中国の仏像や陶磁器を多く所蔵する東京国立博物館などで、作品を様々な角度から観察する。作品を見比べることで、制作された時代や地域を知るだけでなく、実物を見て制作した人の目的を考える。同時に、展覧会を企画した学芸員が何を意図し、何を重視して作品を展示したのかを考え、理解することで、自らの作品理解を深めていく。	対面
0ATV306	保存科学概論	1	1.0	1・2	春C	木4,5	人社B218	松井 敏也	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。それにより、遺産や美術品の劣化や損傷に対し、その診断手法の確立、ならびに診断結果に対する総合的評価を立地環境と担当者らのスキルなどと併せて考慮する視野を構築することを旨とする。実践的処置技術については今後の社会及び環境変動を見据えた課題の抽出とその解決法を科学的に行う能力を習得する。	対面
0ATV307	保存科学演習	2	2.0	1・2	夏季休業中	集中		松井 敏也	保存対象の活用状況や管理状態、地域の関わり方の調査から得られる課題を整理し、対象文化財の保存科学的調査を実施する。保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いての現地研修により習得させ、その分析、評価を関連分野の研究成果等と併せて総合的に考察させることを目指す。また世界遺産をはじめとする遺跡や博物館において、専門家らによる指導助言を受けながら現場レベルの保存科学実務を学び、習得した技術や能力をさらに発展させる。	対面 奈良・京都で実施予定

0ATV401	遺産整備計画論	1	1.0	1・2	春A	月4,5	人社 B218	上北 恭史	遺産の歴史的価値を評価し、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。教育の目標として、文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して適切な保護の方法と利活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的考え方を学ぶ。授業の到達目標として、遺産保護制度の法令の理解および保護計画事例を把握し、遺産の持つ歴史的・社会的価値を評価する能力、需要に適した活用方法の提案ができる能力を身につける。また遺産の復元の問題や国際協力事例について事例を基に議論し、遺産を活かした地域再生について対応できる人材の育成を重視する。	対面
0ATV402	遺産整備計画演習	2	2.0	1・2	春AB	集中		上北 恭史	遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。授業目標として、遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画を立案できる能力をつける。到達目標として、遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画の保存制度を手がかりに遺産保護の具体的手法について分析できるか確認する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法を提案できる能力をレポート等で確認する。	
0ATV403	文化的景観論	1	1.0	1・2	春AB	火4	人社 B218	黒田 乃生	遺産としては比較的新しい概念である文化的景観について、景観の概念の変遷、世界遺産における文化的景観をめぐる議論と現状、日本の文化財における文化的景観の定義と保護、景観と社会の関係などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。講義全体を通じて他の文化遺産と文化的景観の特徴の異同を考究するための緒を与える。保全や概念について国内外の相違を紹介し、履修生とのディスカッションを通じて文化的景観の曖昧さや保護の課題について自ら考えることができるようにする。	対面、オンライン(同時双方向型)
0ATV404	遺産観光論	1	1.0	1・2	秋AB	月4	人社 B218	伊藤 弘	観光に関する用語や意義、歴史的かつ現状の課題および計画論等に関して概説を行うと同時に、観光の対象となる文化資源や自然環境について、世界遺産や指定文化財、自然公園など制度上の評価に捉われない評価の考え方を整理する。利用と保護が持続的に同時に求められる。自然および文化を活かし続ける観光のあり方や取り組み手法、それに基づく観光地整備の考え方について、具体的事例を取り上げながら、その効果と課題を踏まえて考察する。	対面
0ATV405	プランニング演習	2	3.0	1・2	春C秋A 夏季休業中 秋B	集中	人社 B218	伊藤 弘	自然および文化を、住民および来訪者がより深く理解できるような持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、広域的な周辺環境および対象資源について、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業をグループワークを通して体験し、計画の考え方や作業の流れ、評価方法を理解する。また、毎回進捗報告会を実施することで、各自の考え方や主張を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションのやり方と、計画案に関するディスカッションを体験する。	対面 7月下旬開講 夏季休暇中現地演習 (2泊3日) 秋学期以降隔週月曜日 5限に実施予定
0ATV406	インタープリテーション概論	1	1.0	1・2	秋ABC	集中		三ツ井 聡美	自然遺産、文化遺産の価値を伝えるインタープリテーションに関してその歴史と概念を知るとともに、国立公園等の現場における利用者の環境意識とインタープリテーションとの関係などを学ぶ。	

8. 時間割

■授業時間

第1時限 8:40 — 9:55

第2時限 10:10 — 11:25

第3時限 12:15 — 13:30

第4時限 13:45 — 15:00

第5時限 15:15 — 16:30

第6時限 16:45 — 18:00

■休業期間

春季休業 4月1日 — 4月4日

夏季休業 8月10日 — 9月30日

冬季休業 12月26日 — 1月5日

春季休業 2月18日 — 3月31日

■「随時」「応談」の科目等

必修科目（随時）

【1年次必修科目】

世界遺産特別演習（ゼミ・発表会）・・・・・・・・・・学位プログラム全教員

【2年次必修科目】

世界遺産特別研究（修士論文・発表会）・・・・・・・・・・学位プログラム全教員

選択科目（応談）

世界遺産学インターンシップ・・・・・・・・・・学位プログラム専任教員

春学期 4月15日～8月8日

【春A】(4月15日～5月22日)

	月	火	水	木	金
1					(演習等)
2			世界遺産論 学位プログラム教員 B218 セミナー室(大)		
3		美術遺産論Ⅰ 八木 B218 セミナー室(大)		建築遺産論 下田 B218 セミナー室(大)	
4	遺産整備計画論 上北 B218 セミナー室(大)	文化的景観論 黒田 B218 セミナー室(大)			
5					

【春B】(5月24日～6月27日)

	月	火	水	木	金
1					(演習等)
2			世界遺産論 学位プログラム教員 B218 セミナー室(大)		
3		美術遺産論Ⅰ 八木 B218 セミナー室(大)		建築遺産論 下田 B218 セミナー室(大)	
4		文化的景観論 黒田 B218 セミナー室(大)			
5					

【春C】(7月5日～8月8日)

	月	火	水	木	金
1					(演習等)
2				Global Learning: Heritage, Creativity and Art (グローバル に学ぶヘリテージ, 創 造性とアート)	
3				池田・上北・松井他 B218 セミナー室(大) ハイブリット式 (MS Teams)	
4				保存科学概論 松井	
5				B218 セミナー室(大)	

【春学期・夏季休業中 集中講義】（※春 C 7月5日～8月8日）

春 AB	遺産整備計画演習(上北) 自然遺産論(飯田・吉田)
春 BC	World Heritage and Sustainability(世界遺産と持続可能性) (飯田)
	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論) 吉田・飯田・池田 (外部講師: 堀江正彦先生, 鈴木渉先生)
	World Heritage and International Cooperation (飯田) (非常勤講師: 長岡正哲先生 外部講師: 長谷川基裕先生)
	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割) (池田・飯田・肥後)
春 BC 随時	研究倫理 (大学院共通科目)
春 C	Project Practice in UNESCO-designated Area(ユネスコ地域演習) (飯田)
	無形遺産論(池田) (非常勤講師: 宮田繁幸先生・石村智先生)
通年	建築遺産演習(下田)
春 B+夏季休業中	文化遺産演習(黒田)
夏季休業中	保存科学演習(松井)
	自然遺産演習(飯田・吉田・三ツ井)
春 C+夏季休業中+ 秋 AB	プランニング演習(伊藤)
夏季休業中+秋 ABC	Global Project: Designing Heritage Research (グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)(池田・上北・松井)

秋学期 10月1日～2月13日

【秋A】(10月1日～11月7日)

	月	火	水	木	金
1					(演習等)
2		世界遺産を 科学する 学位プログラム教員 教室未定		文化遺産論 下田 B218 セミナー室(大)	
3		美術遺産論Ⅱ 八木 5C402			
4	遺産観光論 伊藤 B218 セミナー室(大)	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加) 池田 B218			
5					

【秋B】(11月11日～12月18日)

	月	火	水	木	金
1	Global Heritage Studies (国際遺産論) 肥後 B218 セミナー室 (大)				(演習等)
2		世界遺産を 科学する 学位プログラム教員 教室未定		文化遺産論 下田 B218 セミナー室(大)	
3		美術遺産論Ⅱ 八木 5C402			
4	遺産観光論 伊藤 B218 セミナー室(大)				
5					
6					

【秋C】(1月6日～2月13日)

	月	火	水	木	金
1					(演習等)
2					
3					
4					
5					

【秋学期・春季休業中 集中講義】

秋 A	UNESCO and the World Heritage Convention ユネスコと世界遺産条約(稲葉信子先生)
	美術遺産演習(八木)
秋 B	遺産保護行政論(下田・非常勤講師)
秋 ABC	宗教論(松井圭介)
	インタープリテーション概論(三ツ井)
春季休業中	World Heritage and Civil Participation(池田)

9. 学外の演習・集中講義等 (●: 学外)

各科目の日程や内容は変更となる場合がありますので、履修前に最新の情報を随時 KdB で確認し、必要に応じて担当教員に問い合わせください。

世界遺産論：池田

授業の方法を変更することがあります。その場合は事前に manaba 経由またはメーリングリストに連絡しますので確認してください。

月	日	曜日	内容	担当
4	8	月	教員自己紹介・演習ガイダンス	全員
	17	水	学生自己紹介①	全員
	24	水	学生自己紹介②	全員
5	8	水	休講	
	10	金	遠足（富岡製学外糸場 WS）	参加希望教員
	15	水	肥後「歴史学・考古学と世界遺産」 三ツ井「世界遺産学への関わり方」	肥後・三ツ井
	22	水	講義① 国際遺産学分野	池田・飯田・肥後・三ツ井
	29	水	講義② 遺産の評価と保存	下田・松井・八木
6	5	水	講義③ 遺産のマネジメントとプランニング	伊藤・上北・黒田
	12	水	協力教員研究紹介	松井（圭）・滝沢・野中
	19	水	テーマ発表①	全員
	26	水	テーマ発表②	全員
7	3	水	休講	

遺産整備計画演習：上北

	日程	時間	場所	担当	内容
	4月19日（金）	10:00～12:00	B218	上北	土浦古地図による探索説明
●	4月26日（金）	逐次連絡	土浦市	上北	土浦亀城地区見学
●	5月17日（金）	逐次連絡	つくば市	上北	筑波山麓小田城跡、平沢官衙遺跡
●	5月24日（金）	逐次連絡	佐原	上北	佐原重伝建地区における活用事例の見学
	5月31日（金）	逐次連絡	B218	大平茂男先生	歴史的建造物の活用の講義
●	6月7日（金）	逐次連絡	川越	大平茂男先生	川越重伝建地区における歴史的建造物の保存事例の見学

* 費用：交通費等

自然遺産演習：飯田・吉田・三ツ井

	日程	場所	費用 その他
●	8月27日（火）～9月1日（日）	小笠原諸島父島	交通費・宿泊費 約8万円

美術遺産演習：八木

	日程	場所	費用 その他
●	10月上旬	東京都内の博物館・美術館	交通費

保存科学演習：松井

	日程	場所（候補）	費用 その他
●	8月27日（火）～31日（土）	宮城県、福島県（震災関連遺構・被災資料）	交通費・宿泊費

プランニング演習：伊藤

	日程	場所	費用 その他
	7月26日（金）13:00～	B218	ガイドンス
●	9月中旬予定	白川郷・五箇山	宿泊費・食費 (別途現地までの交通費)
	10月7日（月）5限以降 10月21日（月）〃 11月11日（月）〃 11月25日（月）〃 12月9日（月）〃 12月23日（月）〃	B218	-

文化遺産演習：黒田

	日程	場所	費用 その他
	7月2日（火）4限	B218	ガイドンス
	8月（未定）	B218	課題発表
●	9月12日（木）～15日（日）（予定）	五箇山	宿泊費・食費 3万円 (現地までの交通費別)

インタープリテーション概論：三ツ井

	日程	場所	費用 その他
	KdBを確認すること		
●			

遺産保護行政論：鈴木地平（文化庁世界遺産室）

	日程	場所	費用 その他
●	2日間（11月～12月に予定）	東京キャンパス	交通費・昼食代

建築遺産演習：下田

	日程	場所・内容	費用 その他
●	7月後半に1週間程度（検討中）	中国（成都）の歴史的地区において伝統集落や建築の記録と保存活用の提案を目的とした調査を実施（検討中） ※中国での実習が実施されなかった場合には茨城県内と都内にて複数回に分けて建築遺産の調査（日帰り）を予定	航空券・宿泊費・食費等 （約12万円）

Project Practice in UNESCO-designated Area：飯田

	日程	場所	費用 その他
●	7月29日～8月4日	白山国立公園，白山ユネスコエコパーク，白山手取川ジオパーク	交通費・宿泊費等

Global Project: Designing Heritage Research

（グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン）：池田・上北・松井

	日程	場所	費用 その他
●	通年	東京都荒川区および台東区，茨城県内ほか	現地までの交通費

10. 世界遺産学インターンシップ

(1) 事前準備

- ① インターンに行く場合には必ず事前に指導教員に相談してください。
- ② 受け入れ先によっては正式な契約書、誓約書などが必要となります。紹介教員から確認してもらい、必要な場合は指導教員まで申し出てください。
- ③ インターンに行く前に学生保険に入ってください。（保険に関しては体芸支援室の学生支援係にお問い合わせください。）
- ④ 先方担当者に評価書（書式 2）を記入・提出していただくこととなりますので、あらかじめ記入書式があることを伝えてください。

(2) インターン中

- ① 世界遺産学インターンシップ報告書（書式 1）に必要な事項を自分で記入し、インターン先担当者のサインをもらってください。
- ② インターン終了後、インターン先の担当者（プログラム指導担当者）に世界遺産学インターンシップ評価書及び修了証明書（書式 2）に総合評価（A～D）と所見の記入、修了証明のサインを頂いてください。

(3) 修了後

指導教員・紹介教員に報告し、報告書（書式 1）と評価書（書式 2）をカリキュラム担当教員まで電子ファイルにて提出してください。

電子ファイルはこちらから (<https://www.heritage.tsukuba.ac.jp/documents/>)

(4) これまでの受け入れ先、紹介者例

（そのほかにも様々な機関でインターンをしています。詳細はカリキュラム担当教員まで。）

受け入れ先	内容	紹介教員
ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所	アジア太平洋地域を対象とした文化遺産の保護・調査・修復の研修における補佐	上北
TBS テレビ	TBS「世界遺産」番組製作現場を学ぶ	上北
白川村（社）ホワイエ	中長期滞在による観光、景観保全の活動	黒田
野外博物館 合掌造り民家園	企画展示、運営業務	黒田
平地域づくり協議会（五箇山）	中長期滞在による地域イベントの企画運営など	黒田
（公財）日本交通公社	観光関係データベース作成等	伊藤
東京国立博物館	保存環境、保存修復に関する業務補助	松井
（株）JTB 総合研究所	観光コンサルティングの調査補助業務	池田
Studio Gross	市民コンサルティングの補助業務	池田

※大学経由型インターンシップなどは、筑波大学キャリア支援チームの HP より確認してください。（P.42 参照）

(例)

書式 1

筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム
(博士前期課程)

世界遺産学インターンシップ報告書

プログラム指導担当者の検印
(印)

学生氏名	筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム(博士前期課程) 学籍番号 ***** 氏名 *****
担当教員	氏名 *****
受入機関名	株式会社 *****
期 間	令和 5 年 月 日 ー 月 日
受入機関指導責任者	部署名 ***** 部 氏名 *****
プログラムテーマ	TBS「世界遺産」番組制作現場を学ぶ
スケジュール	プログラム内容(概要) 合計 32 時間
2023/11/9 (1 時間)	15 時～16 時 SDGS イベントの事前打ち合わせ、作業の説明
2023/11/12 (7 時間)	9 時～16 時 SDGS イベントで「世界遺産」番組出前授業の手伝い 参加者の呼び込みと案内などを経験しました。授業中、番組のディレクターから地球温暖化と絶滅危惧種の説明を聞き、撮影用のカメラも実際に使ってみました。たくさんの参加者さんと交流できて、充実の 1 日でした。
2023/11/17 (8 時間)	10 時～12 時 「日本の聖地」オフライン PV プロデューサーさんとディレクターさんは編集済みの映像に対して色々な意見を出して、修正の方向を決めました。私から見るとかなり完成度が高い映像なのに、放送する前まだ直さないといけない所はそんなにあることに驚きました。 13 時～18 時 「ヴァッハウ」台本の読み合わせ 作家さんと一緒に放送する解説の内容を確認しました。内容が相応しいかどうか、用語の正しいさ、また全体的に理解しやすさを全部細かくチェックしました。視聴者目線での考え方を感しました。 「ロードス島」ミックスのスタジオ見学 収録されたナレーションの音声と映像の内容が対応しているかどうか

(例)

書式 2

筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム
(博士前期課程)

世界遺産インターンシップ評価書及び修了証明書

受入機関名	株式会社 *****	
実習期間	令和 5 年 月 日 ー 月 日	
学生氏名		
総合評価	A	A 100～80 点 B 79～70 点 C 69～60 点 D 59 点以下
所見		
<p>世界遺産のみならず、テレビ番組の制作過程にも深い興味をもっているとのこと。プログラムの過程で疑問に思ったことに対しての質問や作業に関わっていかうという気持ちに大変積極性が見られた。</p> <p>特に SDGS イベントにおいては、来場客が外国人の場合は、自発的に英語で話しかけ番組が展開するブースへの呼び込みも行ってくれた。</p> <p>また、理解力も早く 1 度見聞きしたことを次のプログラムへと反映させよう、学ぼうという強い意欲も感じられたため A 評価といたしました。</p>		
インターンシップ制度の改善点・大学への要望など		
特にありません		

上記のとおり世界遺産学インターンシップを修了したことを証明します。

令和 年 月 日

プログラム指導担当者

氏名 _____ (印)

11. 全学・他学術院の開設科目について

大学院共通科目，および学術院共通専門基盤科目も積極的に受講して下さい。
各科目の授業概要，シラバスは KdB（教育課程編成支援システム）から閲覧できます。

【大学院開設科目一覧】

<https://www.tsukuba.ac.jp/education/g-courses-g-tsukuba-tokyo/index.html>



【大学院共通科目・大学院共通専門基盤科目】

<https://www.tsukuba.ac.jp/education/g-courses-kyoutsuukamoku/>



例：研究倫理（OA00103） 1 単位 春 BC 随時

例：人間総合科学基礎論（OAS0001） 1 単位 春 C 月 2・3 限

世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）

1. 筑波大学大学院スタンダード 世界遺産学学位プログラム (博士後期課程)

Doctoral Program in Heritage Studies

授与する学位の名称	博士(世界遺産学) [Doctor of Philosophy in Heritage Studies]	
人材養成目的	世界の文化遺産・自然遺産の社会的・国際的役割を、地球環境と人間社会の持続可能性の達成を目的とする国際社会のアジェンダ、国際ガバナンスとの関係のもとに総合的に理解し、遺産が直面する問題の所在を政治・経済・社会・自然的要因に関連付けて分析し、その解決のための理論・技術を研究する高い能力を有する世界遺産学の研究者・大学教員、世界のトップリーダーとなる高度専門職業人を育成する。	
養成する人材像	世界の文化遺産・自然遺産の保護において、世界に貢献するという明確な意思及び態度、倫理観、国際社会、特に国際機関における議論の場で通用するコミュニケーション能力・交渉力、国際社会におけるニーズを的確に把握して課題を解決する能力、世界の文化遺産・自然遺産を次世代に伝えていくことができる世界遺産学の研究者・教育者としての能力を持った人材を育成する。	
修了後の進路	大学等教育機関の教員、研究者及び国や地方公共団体の職員、研究員等。文化遺産保護・国際協力分野の公的機関やコンサルタント関連企業等の職員、研究員 ほか。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
6. 共通知の展開力: 文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する幅広い研究成果を展開し、社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
7. 専門知の創造力: 文化・自然遺産に関する高度な知識を創造し活用する能力	文化・自然遺産の保全に関する専門的研究の成果を社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
8. 共通技能の展開力: 文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、研究成果を展開し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
9. 専門技能の開発力: 文化・自然遺産保護の専門的課題の解決方法を見出す能力	文化・自然遺産の保全のため、専門的な解決方法を開発し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
10. 国際的開発力: 文化・自然遺産の保護の国際的課題に取り組む意識と意欲	文化・自然遺産の保全のため、国際社会に貢献する高い意欲と十分な語学力を身につけたか。	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など

学位論文に係る評価の基準	
(博士論文審査)	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 予備審査委員会は、主査1名、副査3名以上、計4名以上の委員で構成し、主査は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。予備審査委員会は、提出論文ごとに1回以上開催し、委員全員が一致して、12ヶ月以内に申請者による学位論文の提出が可能であると判断した場合に「可」、その他の場合に「否」と判定する。 2. 論文審査委員会は、主査1名、副査3名以上、計4名以上の委員で構成し、主査は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。論文審査委員会は、提出論文ごとに1回以上開催し、学位論文の審査を公開で実施し、合否の判定を行う。公開審査の公表から実施までには原則として1週間以上の周知期間をおくものとする。 3. 論文審査委員会主査は、論文博士審査委員会の判定終了後、その結果を、速やかに世界遺産学学位プログラム教育会議に報告し、学位プログラムリーダーを通じて人間総合科学学術院運営委員会に報告する。 	
(評価基準)	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界遺産学の博士論文として適切なテーマが設定されていること (問題意識・課題設定) 2. 先行研究を踏まえた論文の位置づけが明確であること (研究の位置づけ) 3. 課題にふさわしい研究方法が選択されその論拠が信頼できるものであること (研究方法、論拠の信頼性) 4. 論旨展開が十分で、全体に大きな矛盾がないこと (論文の構成) 5. 研究の実施および結果の公開において倫理的な問題がないこと (倫理) 	
(評価項目)	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 独創性：導入した概念や方法、発見した事実や法則のいずれかが新規であること。既知の方法の改良、異なる分野からの応用等を含むこと。 2. 萌芽性：研究の着手段階であるが、新規な発想、着想に基づく研究で今後の発展の可能性の大きなものであること。 3. 発展性：従来の定説を変え得る新事実の解明、あるいは新しい研究領域や研究体系・技術体系の開拓等の契機と成り得るものであること。 4. 有用性：技術の向上、あるいは実用上、学術上に価値のある有用な情報を提供するものであること。 	
カリキュラム・ポリシー	
世界遺産の保護に関する社会的・国際的ニーズに応えるため、遺産保護に関する高度な研究を行う研究者、国内外の遺産保護の現場、国際機関等で高度の学識と専門的能力をもって遺産保護に従事するプログラムオフィサーを育成するため、実践的かつ学際的な学修課程を編成する。	
教育課程の編成方針	遺産保護に関する高度な研究を行う研究者、国内外の遺産保護の現場、国際機関等で高度の学識と専門的能力をもって遺産保護に従事するプログラムオフィサーを育成することを目的に、「文化遺産政策・行政」、「自然遺産・自然保護」、「遺産整備」、「観光計画」、「景観計画」、「建築遺産」、「美術遺産」、「保存科学」、「国際遺産学」の9つの領域からなる教育課程を編成する。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年次において、専門領域の特別研究に参加し、指導教員の指導を受ける。 ・2年次秋学期において、全教員の前で博士論文の中間発表を行い、研究に対する助言を受ける。 ・3年次において、予備審査を経た上で、博士論文を提出し、主査1名、副査3名以上で構成される論文審査委員会により博士学位論文の審査を行う。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次、専門領域の特別研究において、博士論文研究計画を発表する。 ・2年次秋学期において、全教員の前で博士論文の中間発表を行い、審査を受ける。 ・3年次において、予備審査を経た上で、博士論文を提出し、主査1名、副査3名以上で構成される論文審査委員会により博士学位論文の審査を受ける。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	世界遺産の評価、保存、管理と活用に広い視野と柔軟な思考をもって取り組む意欲を持ち、研究活動に適した学力と資質を備えた学生を求める。
入学者選抜方針	入学試験は、口頭試問によって行い、専門に関わる研究能力とプレゼンテーション能力を重視して、選抜を行う。

2. カリキュラム・マップ

世界遺産学位プログラム (D) Doctoral Program in Heritage Studies

Degree Programs in Comprehensive Human Sciences, Graduate School of Comprehensive Human Sciences (Doctoral Program)																								
科目区分 Course Category	科目番号 Course Number	授業科目の名称 Course Name	標準履修年次 Standard Registration year	単位数 Credits			授業形態 Course Methods			汎用コンピテンス Generic Competences					専門コンピテンス Specific Competences									
				必修 Required	選択 Core Electives	自由 Free Electives	講義 Lectures	演習 Class Exercises	実験実習 Practical Trainings	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
基盤科目 General Foundation Subjects	0A00103	研究倫理*	1・2	1			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	0AS0306	世界遺産を科学する**	1・2	1			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専門科目 Major Subjects	0BTV001	世界遺産学特別研究	1~3	3				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。「Required」 indicates required for each degree program.

※ *を付した科目は大学院共通科目 Subjects marked with * are Graduate General Education Courses、**を付した科目は学術院共通専門基盤科目 Subjects marked with ** are Inter-disciplinary Foundation Courses

汎用コンピテンス

- 1 知の創成力
Knowledge creation competence
- 2 マネージメント能力
Management competence
- 3 コミュニケーション能力
Communication competence
- 4 リーダーシップ力
Leadership competence
- 5 国際性
Internationality competence

専門コンピテンス

- 1 共通知の展開力
The ability to develop co-notification
- 2 専門知の創造力
Ability to create specialized knowledge
- 3 共通技能の展開力
Ability to develop common skills
- 4 専門技能の開発力
Capacity to develop professional skills
- 5 国際的開発力
International development capacity

世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）

3. 履修方法

【履修方法・修了要件】

科目区分	科目群	条件又は科目名等	修得単位数
専門科目	必修科目	世界遺産学特別研究 上記のほか学院共通専門基盤科目、 大学院共通科目の履修を推奨する。	3
		修了単位数	3

（修了要件）

3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年（修士課程早期修了者等にあつては当該課程における在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。

4. 履修申請の注意事項

- ・履修申請は申請期間中に TWINS(<https://twins.tsukuba.ac.jp/>)を利用して行ってください。

履修申請を忘れた場合は TWINS から追加履修申請書を出し、体育芸術エリア支援室の大学院教務担当まで提出してください。追加履修申請書には授業担当教員、指導教員、プログラムリーダーの3名の署名捺印が必要となりますので注意してください。

5. コンピテンス達成度評価について

博士後期課程の場合にも、コンピテンス達成度評価を実施し、かつ学位プログラムで定めている達成度評価基準を満たすことが必要です。

1. コンピテンス達成度評価の導入について

筑波大学では、2020年4月に大学院の改組・再編を行い学位プログラム制導入に伴って、筑波大学大学院の学生が修了時に身につけるべき知識・能力等を「コンピテンス」として設定することとなりました。人間総合科学研究群に入学した博士前期課程、博士後期課程の学生も、学位取得までに学位プログラムが設定するコンピテンスの基準に到達する必要があります。

筑波大学大学院を修了した学生全員が身につけているのが「汎用コンピテンス」であり、博士前期課程と博士後期課程とでは若干異なりますが、それぞれ5つが設定されています。それ以外に、学位プログラムの定める「専門コンピテンス」があります。

2. コンピテンスの達成についての考え方

各学位プログラムの「カリキュラム・マップ」において、所属組織が開設している個々の授業科目、および授業科目以外の評価項目について、どのコンピテンスの項目の何単位分に相当するかという基準値を示しています。また研究群では、大学院共通科目や学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目の基準値を示しています。修得した授業科目のそれぞれのコンピテンスの項目の基準値をすべて足し算した値が、学位プログラムの定める達成度評価基準に到達していれば、その項目のコンピテンスは修得できた、ということになります。

博士後期課程では、コンピテンスは修了要件を満たすだけでは達成できないので十分に注意して下さい。修了要件以外の科目の履修や学会発表、フィールド調査、インターンシップなどによってコンピテンスを達成するようにして下さい。

したがって自分が、コンピテンスをどの程度まで達成しているのか、1年ごとに「カリキュラム・マップ」に示されている基準値を計算して自己評価し、それをもとに指導教員と綿密に相談して、必要に応じて履修計画を変更し、学位論文提出時には学位プログラムで定めている達成度評価基準を満たしているようにして下さい。

3. コンピテンス達成度評価の方法

1) 評価時期

・博士後期課程の場合

1年次 2月（年度末）

2年次 9月（中間発表時）

3年次 予備審査時

・休学をした学期については記入不要です。「学期末」「学年末」は適宜、書き換えてください。

2) 評価方法

①博士後期課程に関しては指導教員から学生に依頼する。

②学生自身が、カリキュラム・マップを参照して「達成度評価シート」に記入し、コンピテンスの達成状況を確認する。

③学生は「達成度評価シート」を指導教員に提出する。指導教員は、学生のコンピテンスの達成状況を確認し、コンピテンスの達成度を判定する。不足がある場合は指導教員と話し合っって履修計画を変更する。

④達成度評価を踏まえ、次学期の科目の履修を決める。

⑤博士3年次の論文審査委員会は、達成度評価結果と口頭試問をもとに最終試験を行い、合否を判定する。

⑥「達成度評価シート」は、保管し、次の達成度評価のときに書き加えていく。

⑦その他

・今後、学位プログラムで論文博士を取得する場合にも、学位プログラムのコンピテンス達成度評価基準に到達することが必要になります。

(例)

コンピテンス評価表 (世界遺産学学位プログラム・博士後期課程)

学籍番号 *****

氏名 *****

科目名	汎用コンピテンス					専門コンピテンス					コンピテンス 科目別合計
	知の創 成力	マネジ メント 能力	コミュ ニケー ション 能力	リー ダー シッ プカ 力	国際 性	共通 知の 展開 力	専門 知の 創造 力	共通 技能 の展 開力	専門 技能 の開 発力	国際 的開 発力	
学位プログラム開設科目											
世界遺産学特別研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
											0
小計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
学術院共通専門基盤科目											
世界遺産を科学する						○	○	○	○		4
											0
小計	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4
大学院共通科目											
研究倫理	○	○	○								3
											0
小計	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
他学位P開設科目											
											0
											0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
授業科目以外の評価項目											
学術論文の掲載(海外)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
社会活動参加	○	○	○	○		○	○	○	○		8
国外の調査研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
国内の調査研究	○	○	○	○		○	○	○	○		8
TA/TF経験	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
国際会議への参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
INFOSS情報倫理、APRIN e-learning									○		1
シンポジウム、ワークショップの参加	○	○	○	○		○	○	○	○		8
											0
											0
											0
											0
											0
											0
											0
小計	7	7	7	7	4	7	7	7	8	4	65
合計	9	9	9	8	5	9	9	9	10	5	82
達成基準	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
達成状況	300.0%	300.0%	300.0%	266.7%	166.7%	300.0%	300.0%	300.0%	333.3%	166.7%	273.3%

6. 授業一覧

【必修科目】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTV001	世界遺産学特別研究	2	3.0	1 - 3	通年	随時		池田 真利子, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 黒田 乃生, 下田 一太, 滝沢 誠, 野中 勝利, 松井 圭介, 松井 敏也, 八木 春生, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	本科目は、世界遺産学学位プログラム博士後期課程1年次の必修科目である。世界遺産ならびに関連する国際的・国内的な文化遺産・自然遺産の保全制度の比較研究を通して、研究能力を養成する。具体的には、既往研究に基づいた問題設定や適切な研究・分析の方法の検証、研究倫理をふまえたアカデミック・フィールド調査や論文執筆等、学際的な領域の研究者に求められる適切な研究能力を修得する。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 対面、オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。

【選択科目】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OA00103	研究倫理	4	1.0	1 - 5	春BC	随時		岡林 浩嗣, 大須賀 壮	研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。 本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習(個別演習・グループ演習)を交互に挟む構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動をとりまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。	オンライン(オンデマンド型)
OAS0306	世界遺産を科学する	1	1.0	1・2	秋AB	火2	人社 B218	池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人, 肥後 時尚, 三ツ井 聡美	本講義では、世界遺産(文化遺産・自然遺産)に関する学術的調査・研究の進展や現状と課題。そして保護・利用・活用等における実務的な諸課題・解決方法を、人文社会科学(芸術学・地理学・保存科学)・自然科学(生態学・保存科学)・工学(建築学・建築保存学・造園学)等の観点から多角的・学際的に考究する。	対面 2024年度は対面での実施を予定する。

その他

1. 事務手続き補足（学生生活など）

■修業年限、在学年限について

修業年限とは、課程を修了するために必要な在学期間です。また、在学年限とは、在学することができる最大の年数です。標準修業年限及び在学年限は次のとおりです。なお、休学は原則として通算で博士前期課程は2年まで、博士後期課程は3年まで取得できますが、休学期間は修業年限及び在学年限には算入されません。

（大学院便覧：学生生活 参照）

課 程	標準修業年限	在学年限
博士前期課程	2 年	4 年
博士後期課程	3 年	5 年

※ 長期履修学生に係る修業年限、在学年限は、大学院学則の規定に基づき別途定められていますので、支援室大学院教務担当に確認してください。

■休学、復学、退学、留学等について

休学、復学、退学、留学等、学籍異動を要する場合は、所定の手続を行って大学の許可を得ることが必要です。休学等の手続は、先ず指導教員と体育芸術エリア支援室大学院教務担当に相談をし、学位プログラムリーダーにアポイントメントをとって面談を行ってください。なお、許可を得るためには関係委員会での承認を得るまでの期間が必要となりますので、すべての申請手続きは原則として1カ月前までに行ってください。

また、休学許可日によっては、許可された休学期間の授業料が免除されます。休学が予定されている場合は、できるだけ早く体育芸術エリア支援室大学院教務担当にご相談ください。



（大学院便覧：学生生活 参照）

■履修申請

履修を希望する科目については、定められた履修申請期間中（履修申請の締切日はTWINSのお知らせ欄を参照）に履修申請をしなければなりません。履修申請をしない科目の履修は認められませんので、各自必ず履修申請を行なってください。

履修申請は、「TWINS」というシステムを利用してWEB上で行います。入学時に統一認証システムのIDと初期パスワードが記載されたカードを配布しています。このIDとパスワードを使用してTWINSにログインしてください。なお、統一認証のパスワードが不明になった等の事情により再交付が必要な場合には、学術情報メディアセンターあるいは附属図書館に再交付を願い出てください。

また、科目の実施情報（曜時限や教室など）に変更があった場合は、①manaba等により担当教員から直接連絡、②TWINSのWEB掲示板にて案内、③世界遺産事務室前の掲示板などで周知されます。

WEB掲示板等は毎日必ず確認するようにしてください。

集中授業（履時限が「集中」となっている科目）については、具体的な実施日が決定するまでは履修登録ができません。実施日が決定次第、世界遺産事務室前の掲示板にお知らせが掲示されますので、履修申請期間内に履修登録を行ってください。

■履修申請変更願（履修申請期間外の変更について）

止むを得ない理由があって、TWINS 履修申請の締切日を過ぎて、科目を追加履修あるいは履修中止をする場合は、下記手順に従い TWINS から「履修申請変更願」を印刷し、授業担当教員及び指導教員の承認印を得て、体育芸術エリア支援室大学院教務窓口へ提出してください。「履修申請変更願」には有効期限が記載されています。提出時に期限を過ぎていると無効となるので、TWINS から印刷した後速やかに提出してください。

なお、既に成績が入力されている科目は、原則として履修削除はできません。

*履修申請期間中は、通常の履修登録画面から変更を行ってください。

-----操作方法-----

- ① TWINS メニューの「履修」カテゴリ内にある「履修申請変更」をクリック
- ② 中止したい、あるいは追加したい科目の科目番号を入力し、「追加」ボタンをクリック。
複数科目ある場合は、同じ操作を繰り返す。
(「追加科目」または「中止科目」に科目情報が追加されます。)
- ③ 「申請書作成」ボタンをクリック
- ④ 作成された PDF ファイルを印刷する
- ⑤ 必要事項を記入し、教員（授業担当教員及び指導教員）から承認印を得る
- ⑥ 体育芸術エリア支援室大学院教務窓口へ提出



■履修申請変更願（見本）

令和3年
Date:

履修申請変更願

Request for Change of Registration (1/1)

人間総合科学研究科（博士前期課程）長殿
To: Provost of the Graduate School of Comprehensive Human Sciences

人間総合科学研究科（博士前期課程）
2nd year in Master's Program in Physical Education, Health and Sport Sciences, Graduate School of Comprehensive Human Sciences

学籍番号 / Student ID No. XXXXXXXXXX 氏名/Name _____ (自署/Signature)

下記のとおり、履修申請の変更についてご許可くださるようお願いいたします。
I here by request approval for a change of course registration as stated below.

自筆で署名

記/Description

追加申請科目 / Request for Addition

科目番号 Course Code	科目名 Course Name	開講年度 Academic Year	学期 Semester	曜時限 Day/Period	単位数 Credits	担当教員 Instructor	承認印 Approval Seal
OATV		2020	秋 Fall	月5・月5 Mon5・Mon5	1.0		

授業担当教員からの承認印

変更理由を記入


変更理由/ Reason for change (手書きで具体的に記述すること / handwritten detailed explanation required)

学群生 Undergraduate School Students	クラス担当教員等 Class Instructor / Academic Advisor confirmation _____	印/Sea
大学院生 Graduate School Students	指導教員 Supervisor confirmation _____	印/Sea

提出方法 / Submission procedure

- ①変更理由を記載する。 / State the reason for change.
- ②当該授業科目担当教員(世話教員)の承認を受ける。 / Obtain approval from the relevant course instructor.
- ③学群生はクラス担当教員等の確認を受ける。大学院生は指導教員等の確認を受ける。
Undergraduate School students must obtain confirmation from class instructor.
Graduate School students must obtain confirmation from their supervisor and Chair of the Master's/Doctor Program.
- ④提出期限までに所属の支援室に提出する。 / Submit to the affiliated Academic Service Office.

※ 本紙有効期限を越えると再登録が必要となるので注意すること。 / If you fail to submit by the deadline, you have to re-

 00000000000000000000000048667	本紙有効期限 Submit by	研究科長/学群長 Provost	専攻長/学類長 Chair/Dean	支援室受付 Academic Service Office
	2021年3月25日 16:58 March 25, 2021 16:58	この欄は記入不要		

筑波大学

提出期限の数日前までに
支援室大学院教務へ提出



(TWINS マニュアル 参照)

■シラバスの検索・閲覧

教育課程編成支援システム（KdB）を利用し、本学で開設されている授業のシラバスを閲覧することができます。ログイン用ユーザIDとパスワードの入力欄が配置されていますが、ログインをせず利用できます。

① KdB トップページへアクセス (<https://kdb.tsukuba.ac.jp/>)

② **検索**

例1) 検索フィールド「フリーワード」に講義名、科目番号等を入力し**検索**

例2) 「コースカタログ」ボタンからドロップダウンで「大学院便覧」>「人間総合科学学術院」>「人間総合科学研究群（博士前期課程）」>「世界遺産学学位プログラム」と選択していき**検索**ボタンをクリック

③ **シラバス**ボタンをクリックすると、ブラウザ上でシラバスを表示できます。

検索フィールド

[English](#)

2023

学期: 曜日: 時限:

教室: > >

コースカタログ: > > > >

フリーワード:

OR AND

概要・シラバス・備考含む 英語で実施 科目等履修生対象 短期留学生対象 当該年度開講しない科目を除く

1件目 から 36件目の検索結果を表示しています (全部で 36件あります)

科目番号	科目名	授業方法	単位	年次	学期	曜時限	教室	担当教員	備考	科目等履修生	短期留学生	参照
OATV001	世界遺産論	1	2.0	1・2	春AB	水2,3	人社B218	池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 滝沢 誠, 武 正憲, 野中 勝利, 松井 圭介, 松井 敬也, 八木 春生, 吉田 正人	オンライン(同時双方向型). 対面 希望者はオンライン受講可能	×	×	シラバス 授業概要
OATV002	世界遺産特別演習	2	3.0	1	通年	随時		池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 武 正憲, 松井 敬也, 八木 春生, 吉田 正人	オンライン(同時双方向型). 対面	×	×	シラバス 授業概要

OATV001 世界遺産論

2.0 単位, 1・2 年次, 春AB 水2,3
池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 滝沢 誠, 武 正憲, 野中 勝利, 松井 圭介, 松井 敬也, 八木 春生, 吉田 正人

授業概要

世界遺産学学位プログラムの教員全員の研究内容の紹介、遺産の評価と保存、マネージメントとブランニング、国際協力などについての討論を通して、研究に必要な基本的視点を確立する。また最新の遺産の保護と活用の事例に関する報告、文化遺産・自然遺産保護の現場の訪問を通して研究の先端に触れる。履修する大学院生は、最も関心を抱いている文化遺産・自然遺産の分野を選び、研究対象となりうる課題について発表することを求められる。

備考

オンライン(同時双方向型)
対面
希望者はオンライン受講可能

授業方法

講義

学位プログラム・コンピテンスの関係

知の活用力、マネージメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力

授業の到達目標（学修成果）

世界遺産の保護の基礎となる理念を確立し、技術的体系を実現するという世界遺産学の総論と事例紹介を行う。そして学生たちは、世界遺産研究に必要な研究の基本的視点について議論をすることができるようになる。

■支援室について

修学上の様々な手続き、問い合わせについては、体育芸術エリア支援室（5C棟2階）にて対応しています。窓口の対応時間は平日の9：00から17：00まで（12：15～13：15を除く）です。窓口の他、支援室内には証明書自動発行機やレポートボックス、TAの出勤簿などがあります。

大学院教務窓口：授業・成績などに関すること。修了・休学等に関すること。TAに関すること。教員免許に関すること。他

学生支援窓口：奨学金・授業料免除に関すること。拾得物に関すること。駐車場利用に関すること。他

研究支援窓口：研究倫理に関すること。他

■重要な連絡について

修学に関する重要な連絡事項は、E-mailにより配信する場合があります。原則として大学から学生全員に付与されているアドレス（@u.tsukuba.ac.jp）に送信しますので、常用しているアドレスに転送設定するなど、即時確認できるようにしてください。

■在学生向け URL

サイト名	QRコード	URL	サイト名	QRコード	URL
大学院 便覧		https://www.tsukuba.ac.jp/education/g-courses/index.html	筑波大学 大学院人間 総合科学 学術院 HP		https://www.chs.tsukuba.ac.jp/
TWINS		https://twins.tsukuba.ac.jp/campusweb/ 履修登録・掲示板確認・成績確認など、学修の様々な場面で使用するシステムです。	筑波大学 附属図書館 Tulips		https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/
筑波大学 教育課程 編成支援 システム (Kdb)		https://kdb.tsukuba.ac.jp/ 科目の情報（シラバス等）を検索・閲覧できるシステムです。	学内無 LAN システム		http://www.cc.tsukuba.ac.jp/network/access/
学習管理 システム manaba		http://www.ecloud.tsukuba.ac.jp/manaba オンライン授業の基本となるシステムです。 講義の視聴やレポート提出を行います。	筑波大学 統一認証 システム		https://account.tsukuba.ac.jp/
筑波大学 キャリア 支援チーム		https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/ インターンシップや進路についての様々な情報が掲載されています。	TA ハンド ブック		https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-ta-handbook/

2. 教員研究分野一覧（博士前期・後期課程）

研究分野	教員名	研究内容
持続的遺産保全	飯田義彦	自然-人間系における持続可能な遺産の保安全管理に関する研究を行う。とくに持続可能性、生物文化多様性、地球環境学の観点から実践的に考究する。
現代社会の文化芸術研究と都市遺産、創造性と市民参加	池田 真利子	ドイツを中心とした中央・西ヨーロッパの都市遺産の市民参加型保存・活用のほか、世界あるいは日本の現代社会における有形・無形の文化の保存・継承・変容と創造性・文化創造産業の役割に関して、人文学的・地理学的観点に基づく理論・実証的研究を行う。
開発観光計画	伊藤 弘	地域の特徴を形成する自然と文化を、持続的に活かし続ける観光および地域のあり方と、その実現方策に関する研究を行う。
遺産整備計画	上北 恭史	遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について研究し、地域の自然環境とともに継承されてきた木造建造物や伝統的集落の調査や保存体制の構築、防災への対策、保存活用計画策定など遺産の保存に関わる計画的手法を考究する。
文化的景観	黒田 乃生	人と自然の関わりが生み出した文化的景観について保護制度、景観の変遷と住民とのかかわりに関する研究を行う。
建築遺産	下田 一太	歴史的建築や都市、考古学サイトを対象とし、その歴史・デザイン・構造・技術・社会活動等を学術的に評価し、それらを保存・修復・伝達・継承するアプローチについて考究する。
文化遺産・古代エジプト文化史	肥後 時尚	古代エジプトを中心とした古代世界の文化遺産の歴史・文化的価値を分析・評価するための文化史研究、古代の文化遺産の保存・修復・活用にかかる研究を行う。
保存科学	松井 敏也	遺産や博物館資料等の保存と活用のために、自然科学的手法を用いてそれらの劣化の解明や、予防技術、修復材料などの研究を行う。
自然保護地域管理学	三ツ井 聡美	世界自然遺産や国立公園の保全と利用の両立のために、管理に携わるステークホルダーの意識や行動について科学コミュニケーションの観点から研究を行う。
美術遺産	八木 春生	本研究分野では、中国を中心とする仏教美術作品が、いかなる目的で造られ、それをどのように見せようとしたかを明らかにすることで、それぞれの評価を行う。

2024年4月現在

※世界遺産学学位プログラムでは「国際遺産学」「遺産の評価と保存」「遺産のマネジメントとプランニング」の3つの専門分野を軸に教育と研究を行っています。それぞれの分野については下記 HP をご覧ください。

<https://www.heritage.tsukuba.ac.jp/>

3. 教員一覧および連絡先

飯田義彦 准教授 (研究室：共同研究棟 A2 階教員研究室 A205_2)

内線：2820 e-mail：iida.yoshihiko.ga@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：木曜日 10：00-12：00

池田真利子 助教 (研究室：人文社会学系棟 2 階教員研究室 B215・B203)

内線：2781 e-mail：ikedam.mariko.gt@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：火曜日 10：00-12：00

伊藤 弘 准教授 (研究室：共同研究棟 A2 階教員研究室 A205_1)

内線：2825 e-mail：ito.hiromu.fn@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：火曜日 14：00-15：00

上北恭史 教授 (研究室：共同研究棟 A 棟 2 階教員研究室 A204_1)

内線：7498 e-mail：uekita.yasufumi.fb@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：木曜日 10：00-12：00

黒田乃生 教授 (研究室：芸術学系棟 B401)

内線：5992 e-mail：kuroda.nobu.fw@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：火曜日 15：30-16：30

下田一太 教授 (研究室：人文社会学系棟 2 階教員研究室 B212)

内線：2718 e-mail：shimoda.ichita.gm@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：木曜日 10：00-12：00

肥後時尚 助教 (研究室：人文社会学系棟 2 階教員研究室 B213)

内線：2820 e-mail：higo.tokihisa.ft@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：火曜日 10：00-12：00

松井敏也 教授 (研究室：芸術学系棟 B404)

内線：5832 e-mail：matsui.toshiya.fu@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：火曜日 14：00-15：00

三ツ井聡美 助教 (研究室：)

内線： e-mail：

オフィスアワー：

八木春生 教授 (研究室：芸術学系棟 B402)

内線：2826 e-mail：yagi.haruo.ft@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー：火曜日 16：00-17：30

(兼担)

松井圭介 教授 (研究室：総合研究棟 A307)

内線：4213 e-mail：jiji@geoenv.tsukuba.ac.jp

野中勝利 教授 (研究室：芸術学系棟 B432)

内線：2704 e-mail：nonaka@geijutsu.tsukuba.ac.jp

滝沢 誠 教授 (研究室：人文社会学系棟 B708)

内線：4044 e-mail：takizawa.makoto.fw@u.tsukuba.ac.jp

令和6年度学年暦カレンダー

学群/大学院(筑波キャンパス)

曜日 月	春学期							秋学期						
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4月	パターン1(ABCモジュールを基本) ・ABCモジュール15通授業+期末試験 ・Aモジュール 5通授業+期末試験 ・BCモジュール 10通授業+期末試験													
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
	1	2	3	4	5	6	6	7	8	9	10	11	12	13
5月	パターン2(ABモジュールを基本) ・ABモジュール10通授業+期末試験 ・Cモジュール 5通授業+期末試験													
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30					1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
6月	パターン1(ABCモジュールを基本) ・ABCモジュール15通授業+期末試験 ・Aモジュール 5通授業+期末試験 ・BCモジュール 10通授業+期末試験													
	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31		1	2	3	4	5	6	7
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
7月	パターン2(ABモジュールを基本) ・ABCモジュール10通授業+期末試験 ・Aモジュール 5通授業+期末試験 ・Cモジュール 5通授業+期末試験													
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31				1	2	3	4	5	6	7
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月	パターン1(ABCモジュールを基本) ・ABCモジュール15通授業+期末試験 ・Aモジュール 5通授業+期末試験 ・BCモジュール 10通授業+期末試験													
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
9月	パターン2(ABモジュールを基本) ・ABCモジュール10通授業+期末試験 ・Aモジュール 5通授業+期末試験 ・Cモジュール 5通授業+期末試験													
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
授業 日数	15 15 15 15 15 15 15							15 15 15 15 15 15 15						

- (注)
- 囲みは、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。
 - 期末試験日は、で示し、試験予備日は、で示す。
 - 授業日は、で示す。
 - 入学式・新入生オリエンテーション・卒業式・学位記授与式・TOEIC® IPテストはで示す。

- 11月5日(火)は、大行行事(学園祭)による臨時休講日。
- 11月27日(水)～11月29日(金)は推薦入試の関係で全日臨時休業とする。
ただし、27日(水)は3年次TOEIC®IPテストを実施する。(仮)
- 1月17日(金)及び1月20日(月)は大学入学共通テストの関係で全日臨時休業とする。

2024年度 世界遺産学学位プログラム 履修ガイド

2024年4月発行

筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 世界遺産学学位プログラム

